

【表題】 模擬飛行訓練装置による操縦適性検査の線形判別分析【論文】

【著者】 山下 勝、竹之内 修

【発表】 航空大学校研究報告 R-55

【時期】 2002年12月

【概要】

航空大学校の入学第3次試験は、操縦適性検査と面接試験からなっている。このうち操縦適性検査は、昭和42年度入学試験から平成11年度入学試験まで実機を用いて実施されてきた。しかしながら、運航費の削減、天候による受験生に対する不平等感の是正などの理由から、平成12年度の入学試験以降、模擬飛行訓練装置（Flight Training Device、以後FTDと記す）を用いて実施している。

過去、航空大学校における入学試験に関していくつかの報告がなされている。日野は、入学試験成績と帯広課程成績の相関関係を調べ、操縦適性検査成績において、航空機の計器指示偏位量に基づく客観的数値評価と試験官の主観的成績評価との間には相関関係があることを明らかにしている。田尻は、操縦適性検査成績と各課程修了時の操縦演習成績および計器飛行地上演習成績との間の相関関係を調べ、その相関関係が弱いことを明らかにしている。

以上のように、操縦適性検査に関する研究が行われていたが、FTDを用いた操縦適性検査については、平成14年度の入学第3次試験を含めて合計3回実施と新しいこともあり、その検査結果についての十分な分析、検討が行われていない。そこで、本研究においては、今後のFTDを用いた操縦適性検査の改正、変更点を見つけだす基礎研究として、平成12年度から平成14年度の操縦適性検査に使われた各検査項目が操縦適性検査のグループ分けにどのように寄与しているか分析検討を行った。